

不完全な金融市場における賃金決定と固定資本投資について：

中国経済のケース

顧 濤（大東文化大学）

この論文の目的は、賃金決定と固定資産投資が不完全な金融市場の下でどのような影響を受けるのかを実証的に調べることである。さらに、賃金決定と固定資産投資の間にはどのような相互関係を持っているのかについても検証を試みた。

本稿ではいくつかの統計年鑑より 2001～2015 年の所有形態別の労働賃金や固定資産投資及び金融市場発展状況に関する省レベルの集計データを収集し、パネルデータを構築した。主に以下の推定結果が得られた。まず、金融市場成熟度の上昇は国有企業の賃金水準の上昇をもたらす一方、私有部門ではこの現象が観察できなかった。固定資産投資については、内部留保を含む自己調達資金は設備投資との正の相関がみられ、中国の金融市場が不完全であることを示している。さらに私営部門では自己調達資金への依存度が強く、国有部門では設備投資と自己調達資金との関係が観察されず、私営部門は金融市場で差別的な取り扱いを受けていることが示唆される。最後に固定資産投資の決定において、金融市場の状況に加えて、1 期前の賃金上昇率を考慮した推定を行った。国有部門では、賃金の上昇は固定資産投資との正の相関が得られる一方、非国有部門ではこの関係が観察できなかった。このことは、借入制約を受けている不完全な金融市場の下で非国有企業が、賃金支払いを抑制することを企業存続のためのサバイバル戦略として用いられている可能性を示唆している。